

擬似窓と仕切りの有無が作業者の心理及び作業成績に及ぼす影響

萩原 侑香

近年、都市の過密化に伴い地下空間の作業環境としての利用が本格的に検討され始め、窓に関する研究が重要性を増している。窓がないことの不快感を抑えるために、窓の代わりとして「擬似窓」の効果を検証した研究がされている。擬似窓とは、窓のない環境において、窓の代わりとして擬似的に窓のように見せているものの総称である。本研究では、無窓環境のような一般的に不快とされる環境において擬似窓の与える効果を調べることを目的に、2つの実験を行った。

まず、実験1では、擬似窓と仕切りの関係を検討している先行研究が未だに無いことから、擬似窓と仕切りの有無の2要因で実験計画を立てた。ガラス越しに透過スクリーンをかけ、そこに自然風景の映像を投射したものを擬似窓として実験環境を作った。また、各条件の参加者に気分評定と室内印象評定を尋ね、パソコン画面と手元の紙を見比べる校正課題を行い、それぞれの回答を測定指標とした。

実験の結果、印象評定において、仕切りなし条件では擬似窓がある方がない方よりも印象が良かったが、気分評価には擬似窓と仕切りの効果は見られず、課題パフォーマンスでは、仕切りあり条件では擬似窓がある方がない方よりも、正答率が下がるという結果となった。

実験1では、仕切りに関して全く効果を得ることができなかった。それは、実験環境が外部の刺激がほとんど無い統制された環境であったため、仕切りの持つプライバシーを与え、落ち着いて作業ができるという効果を発揮しなかったことが原因だと考えられる。むしろ、擬似窓のみで室内印象の向上に効果があることが明らかとなり、実験2では単調作業と創造性作業の2つの課題を通して、擬似窓の有効性に関して検討した。実験では擬似窓の有無を実験参加者内要因とし、課題(クリエイティブ課題と校正課題)を実験参加者間要因として、2要因で計画し、クリエイティブ課題では特定の物の本来の使用法とは異なる使い方を考える課題を行った。

実験の結果、擬似窓はどちらの課題においても、室内印象を高める効果があることが明らかとなった。また、擬似窓は校正課題には影響が無かったが、クリエイティブ課題では効果が見られた。

実験1と実験2の結果を統合すると、擬似窓と仕切りの両方を設置すると、校正課題の正答率が下がり、パフォーマンスに負の影響を与えることが示唆された。また、擬似窓は参加者の気分には効果を与えないことが示された。しかし、室内印象では、擬似窓は校正作業と創造性作業の両方の評価を高め、校正作業のような単調作業のパフォーマンスには、一切効果をもたらさないが、創造性作業のような拡散的思考を必要とする作業のパフォーマンスを向上させる効果があることが示された。以上のことから、擬似窓は仕切りの無い環境では室内印象を高め、創造性作業では課題パフォーマンスを上げる効果があることが明らかとなり、擬似窓をオフィスに設置することは効果があると言える。

擬似窓の研究で、創造性を必要とする課題との関連を調べた先行研究は無く、本研究でクリエイティブ課題に対し擬似窓が効果を与えたことが明らかとなった。今後、さらなる擬似窓と創造性作業の関係を調べる実験を行っていく必要があるだろう。(応用行動学・ボランティア行動学)